

人さがせな虫

山道でたいへん変わった植物を見つけました（写真）。葉の形から、この植物はマツの木の間で、先っちょについている刺の生えた丸いものは、その松ぼっくりだと思いました。持ち帰ってさっそく図鑑で調べてみましたが、名前が分かりません。葉と枝は、トウヒという植物になるのに、肝心の松ぼっくりの形が全然合わないのです。



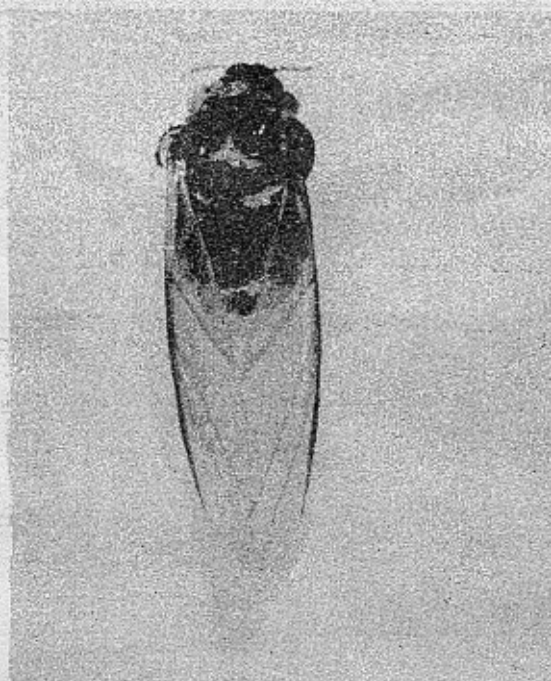
その松ぼっくりをよく観察してみると、トゲのつけねに穴があいているものと、あいていないものとがありました。この穴は当然タネが出るところだと信じて疑いませんでした。いっしょうけんめい調べたのに名前が分
トウヒについた虫こぶ



穴のあいていないもの



穴のあいているもの



エゾマツカサアブラムシ

分からないので、ナイロン袋に入れて放っておきました。1週間ほどたって再度挑戦しようと袋の中をのぞくと、なんとそこにはハエを小さくして空色にぬったような虫が、うようよと動き回っていたではありませんか。松ぼっくりから出てきたのです。問題の松ぼっくりは、タネが出るどころか「虫こぶ」だったのです。

虫こぶは正しくは「虫えい」と言って、植物の体の一部が異常にふくれて、その中に昆虫の

幼虫や卵が入っているもののことです。トウヒについていたものは、昆虫の先生に「エゾマツカサアブラムシの虫えい」だと教えてもらいました。このアブラムシがまだ柔らかい新芽にもぐりこみ、ストローのような口をチクリとをさしこんで樹液を吸いはじめると、これが刺激になって、トウヒは自分の葉を作らずにせっせとアブラムシのすみかとなるこぶを作りはじめるのです。植物にとってはたいへん迷惑なことに違いありません。

それにしても、虫がチュウチュウと樹液を吸っただけで、どうしてこのようにみごとな松ぼっくりもどきができてしまうのでしょうか。特定の植物と特定の昆虫との不思議な関係。自然には、不思議なことや、驚かされることがたくさんありますね。

(太田 道人)



富山市科学文化センター

〒939 富山市富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123 (代表)

平成3年10月20日